

2月27日

午前

フランクフルトエネルギー局 ボルフガング スタイン博士（パッシブハウスの専門家）からドイツの省エネルギーハウス、パッシブハウスについて講習を受けた。右は、エネルギー局が入っている建物。その下は、ノーザンプランニングコーポレーションの部屋までの案内表示。



博士は、パッシブハウスを推進する必要性について次の3点を挙げられた。

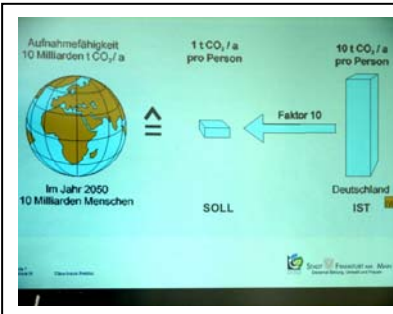
- 1：ドイツ国内で今までになかった洪水が起きるなど明らかに気候が変わってきており公共の建築物で新しい建物の構築の仕方などを示す必要性があること。
  - 2：エネルギー価格が上昇しておりエネルギーは有限であること。
  - 3：一人あたりのCO<sub>2</sub>の年間排出量を現在の10トンから2050年までには1/10の1トンに抑える目標を掲げたこと。
- このためにパッシブハウスが必要になった。



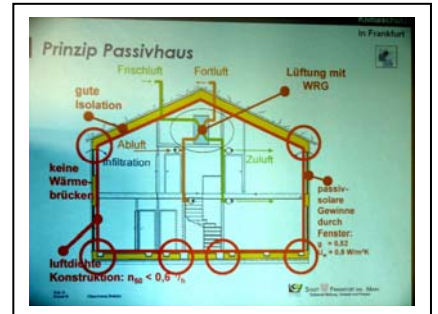
以下、スライドを使って説明。（要旨のみ紹介）



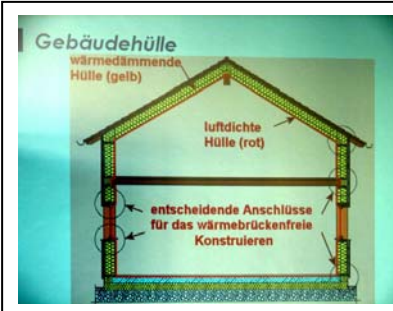
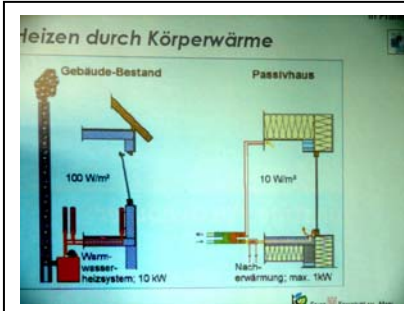
スライドショーのタイトル



地球規模のCO<sub>2</sub>消費量とドイツの目標



住宅の熱損失の部位について説明



パッシブハウスの定義については、従来の暖房エネルギー100w/m<sup>2</sup>を10W/m<sup>2</sup>以下に抑える。これ以上の性能の住宅をパッシブハウスと呼ぶとのことであった。その場合の室内平均温度はどれくらいかの質問に対しては長い間のやり取りの結果20℃相当で落ち着いた。博士は、あいまいな「心地よい温度」という表現を貫き通したかった様であった。パッシブハウスの暖房イメージを20m<sup>2</sup>の部屋を想定して描くと、10W/m<sup>2</sup>の性能では200wの暖房エネルギーが必要である。これは、1名+照明、または2名の在室で暖房エネルギーが賄えることを意味する。

